

こどもの未来を最優先!!

林 さえこの柏市議会 Report

NO.28



現在の政府見解

5月、マスクの着用に関する政府見解が改めて示されました。屋外では、近付いて会話をする時以外、マスクの着用は不要とされています。屋内でも距離を確保できれば不要であり、会話するとしても換気などの感染防止対策が取られていればマスクを外すことも可と示されています。また、引き続き2歳未満の子どもにはマスク着用を推奨せず、就学前の子どもにも一律に着用を求めています。



脱マスク にむけて



厚労省も
推奨

「しなくてもいい」ではだめ

柏市教育委員会も繰り返し「マスクを着用しなくて良い場面」をすくすくメール等で通知していますが、私の元には、体育の授業中、子ども達がマスクをしたまま運動しているという目撃情報と、熱中症や酸欠が心配というご相談が寄せられています。現在の学校の指導では不十分です。

この2年間で「マスクを着けることが正義」と思い込まされた子ども達自身がマスク警察となっています。長期にわたって顔を隠すことに慣れた子どもたちが、顔を出すことに心理的な抵抗を持っていることも深刻

《発行》 2022.7.15

柏市議会議員 林 さえこ

プロフィール・各SNS
はこちら



《お問い合わせ》

林 さえこ事務所

&市民ネットワーク・かわ

〈事務局〉火水金 9:00~13:00

〒277-0011

柏市東上町2-28 第一水戸屋ビル

3F Noblesse Oblige

TEL:080-7628-7737

熱中症・酸欠のリスク

厚労省は特に、熱中症の恐れがある夏場は熱中症対策を優先させ、マスクを外すよう注意喚起しています。

2021年2月、大阪府高槻市立小学校で5年生の男の子が体育の授業中に倒れ、帰らぬ人になりました。死亡との因果関係は不明とされていますが、倒れる直前、マスクをつけて持久走をしていたとされています。

文科省は体育や部活中のマスクは不要と通知していますが、同時に「児童・生徒が希望する場合は否定しない」としていました。亡くなった男の子の小学校でも同様の指導がされていました。父親は「子どもに判断を委ねるべきではない。運動中のマスクの危険性を広く知ってもらいたい」と訴えています。

です。どんなに暑くても「自分でははずせない」子どもたちがいます。

6月に入り、マスクをした児童生徒が熱中症で搬送される例も複数報道されています。大阪市教育委員会では、体育の授業で教員が率先してマスクを外すよう各学校に通知しました。

子どもが熱中症や酸欠で死亡するようなことがあってからでは遅いはず。子どもの命を守るために、熱中症対策、酸欠対策を優先する指導を徹底するよう柏市にも求めました。

検証!



コロナワクチンの効果

データ「修正」問題

厚労省は 10 万人あたりの新規陽性者数をワクチン接種状況に分けて公表していますが、4月初旬まで「接種した日付が分からない」など未記入の部分がある接種者を“未接種者”として計上していたことがわかりました。データを修正する前は未接種者の新規陽性率が高く、さもワクチンの効果が高いように見えますが、修正した後は未接種者の新規陽性率が激減し、2回、3回接種者と大きな差がなくなっています。

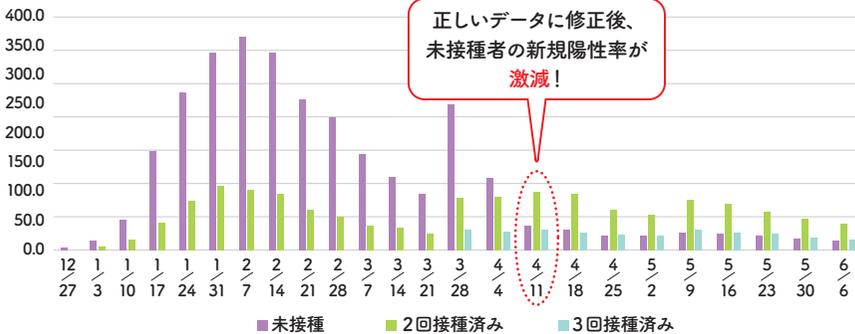
厚労省は誤ったデータを発表し続けたことを故意ではないと言っていますが、感染予防効果が過大に評価された上で接種勧奨されてきた事実が変わりません。



出典：
厚生労働省
新型コロナウイルス
感染症対策
アドバイザリーボード

10万人あたりの新規陽性者数 65～69歳

出典：厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード



正しいデータに修正後、未接種者の新規陽性率が激減!

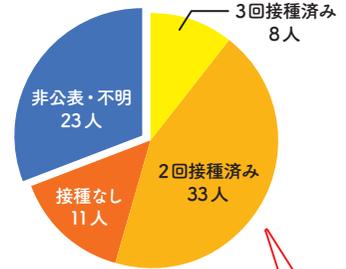
未接種者の陽性率が一番低い?!

年代や週によって多少前後しますが、データ修正後、30代から70代は2回接種者より未接種者の新規陽性率の方が低く推移しています。興味深いのは65歳～69歳のデータです。2回接種者ばかりか3回接種者よりも更に未接種者の新規陽性率の方が低く推移しています。

柏市のデータから見ても、オミクロン株以降、ワクチンの感染予防効果、重症化予防効果は非常に限定的です。ワクチンさえ打てばコロナが収まると信じ、副反応のリスクを受け入れ2回3回と接種した方は裏切られた想いではないでしょうか。接種後の死亡報告が1,743件(5月27日まで)にも上ることからも、ワクチンの効果とリスクを改めて検証すべきと考えます。

第6波以降の死亡者のワクチン接種状況(柏市)

出典：柏市保健所資料(2021年12月～22年5月)



接種状況のわかるコロナ死亡者の79%がワクチン2回以上接種済み

子どもたちに無添加せっけんを

PRTR制度

1999年、化学物質排出把握管理促進法が公布され、PRTR制度が始まりました。人の健康や生態系に有害な恐れがある化学物質の、環境中に排出される量や廃棄物に含まれて移動する量を事業者が届け出て、推計量を含めて国が集計・公表する制度です。PRTR制度では462の化学物質が「第一種

指定化学物質」として、そのうち発がん性や生殖細胞変異原性などが認められる15物質が「特定第一種指定化学物質」として指定されています。

3月に発表された2020年のデータを見ると、全国で排出された指定化学物質およそ318,000トンの内、家庭からの排出量は11%であり、その6割以上が合成洗剤に使われる化学物質です。

子ども施設の手洗い洗剤

実は柏市の子ども施設では、この第一種指定化学物質の含まれる手洗い洗剤を子どもたちに使わせているケースが多々あります。これまで繰り返し是正を求め、多くのこどもルームでは無添加せっけんの手洗い洗剤を採用していますが、柏市全体が化学物質削減に消極的だったため、学校や保育園ではな

調査報告書の公表

2018年12月、市立柏高校の吹奏楽部に所属していた2年生の男子生徒が、校舎屋上から転落し死亡しました。自死と見られています。当時この事件は「調査中」とされ、議員でもほとんど情報を得られませんでした。3年経った今年3月、第三者委員会より調査報告書が公表されました。

報告書では生徒が自死に至るまでの日々を追ひ、原因とみられる要素として「学業不振、異性問題、教職員からの指導、いじめ、部活への参加」と複数挙げながら、「直接的な原因は特定できない」と結論付けています。その上で、背景には市立柏高校吹奏楽部の過度な長時間練習と、それによる思考力、集中力の低下や精神的な余裕の欠如があったと指摘されました。

吹奏楽部の強豪校イチカシ

男子生徒は小学生から吹奏楽を始めました。コンクールでの受賞経験もあり、マーチングをやりたいという思いから吹奏楽部の強豪校である市立柏高校に進学しました。

報告書によると、部の正式な練習時間は平日16:00～19:00、休日8:00～17:00でしたが、時間内に終わらないことも多く、21:00を過ぎることもありました。さらに時間外の「自主練」にもほとんどの生徒が参加し、半強制状態でした。結果として部活動は1ヵ月192時間以上、授業時間も含めると346時間にもなり、拘束時間が過労死ライン(240時間)を大きく超過していました。

イチカシの光と影

問題は長時間練習だけではなく、多すぎる訪問演奏やイベントへの参加、学業より部活動が優先される場面の多さ、教職員が部活動の是正について意見できない空気など多岐にわたります。

私たちの見ていた市立柏高校吹奏楽部の素晴らしい活躍は、子どもたちの身体と心の健康を犠牲にして成り立っていたものでした。吹奏楽部の活躍を優先するあまり、子ども達に過度の期待を背負わせ、負担を知りつつ容認してきた、大人の罪は計り知れません。

厳格な総量規制を

日本スポーツ協会が昨年公表した「学校運動部活動指導者の実態に関する調査」では、中学校の4割以上、高校の7割以上の運動部が、スポーツ庁のガイドラインの活動時間を超過しています。柏市が策定した小中学校の部活動ガイドラインも初版は抜け道が多く、私はこれまで長時間練習を防ぐため厳格に規制すべきと指摘してきました。今は改善され、第3版が運用されています。同じように市立柏高校の部活動の実態に注目してこなかったことを、今とても悔んでいます。

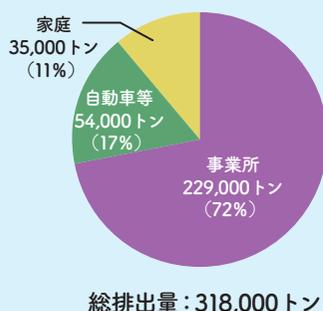
強豪校だからこそ、加熱しすぎる教職員や生徒自身を抑える仕組みが必要です。現在、市立柏高校の部活動の見直しが進められていますが、これまで通りの活躍を望む教職員や生徒自身、保護者の反発があったとしても厳格に規制し、子どもの命と健康を最優先にするよう求めました。

かなか見直しが進みませんでした。

今回の議会では、初めて太田市長から指定化学物質の削減に前向きな答弁があり、ようやく全庁的に見直しが始まります。国が「人や生態系に有害性がある」とする化学物質を、公共施設から環境中に排出しないでほしい。子どもに使わせないでほしい。当たり前の要望がやっと通りました。

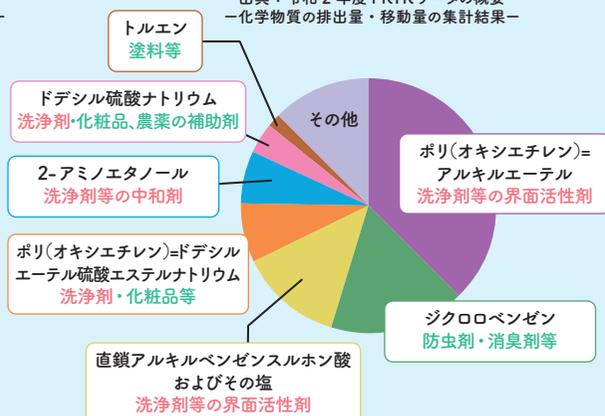
排出源別の化学物質排出量(2020年)

出典：令和2年度PRTRデータの概要
—化学物質の排出量・移動量の集計結果—



家庭から排出される化学物質の内訳(2020年)

出典：令和2年度PRTRデータの概要
—化学物質の排出量・移動量の集計結果—





整備計画の公表

十余二の青少年センターの敷地に 2026 年度、開設を予定されている児童相談所は、子どもから若者まで切れ目ない支援体制の構築を目指すことされ、6月に(仮称) 柏市子ども・若者総合支援センターとして整備計画が公表されました。目指す方向性は良いのですが、元々児童相談所と一時保護所の開設に向けて検討されていて、孤立、自殺、ニート、ひきこもり、不登校、精神疾患等、若者の様々な課題をどの部署に繋げ、どこと連携し、どのように支援するのか、検討が進んでいませんでした。

居場所のない若者

若者支援で一番緊急性が高いのは、今日帰る家がない、今日安心して寝る場所がない場合です。親から精神的虐待を受けて家出した、少年院等を出た後に行く先がない、家賃が払えなくなったが頼れる親類がないなど、居場所を失って緊急に保護される必要のある若者は少なからずいますが、一時保護施設に入所できるのは18歳までであり、19歳以上には対応していません。

ん。また、18歳以下でも、一時保護所からは学校に通えない、携帯を取り上げられる等の理由で、本人が一時的保護を拒否したり、相談自体を諦めたりするケースがあります。

そして、ネットカフェやラブホテル、路上生活、性産業、パパ活などが、居場所を失った若者の受け皿になっている実情が、かねてより指摘されています。

本気で若者支援を

最大 22 歳までの若者を委託できる児童自立援助ホームは市内に 3 施設ありますが、緊急一時的に若者を保護できるシェルターのような機能は市内になく、整備計画でも触れられていません。今後は子ども・若者支援推進法に基づく相談・居場所機能を新たに整備し、そこから生活困窮者自立支援法における一時生活支援事業に繋げるなどの連携が必要です。教育委員会や保健所、職業支援を行う経済産業部との連携も必要であり、早急な検討を求めました。引き続き注視していく課題です。

保育需要と幼稚園

昨年度末、幼稚園児の保護者から立て続けに延長保育料の値上げについて相談を受けました。調べると今年度から通常保育料や延長保育料を値上げた幼稚園が多々確認され、ある園は最大で年間 36,000 円も延長保育料を上げたことが分かりました。

国の幼保無償化により、保育の必要性が認められれば、450 円 × 利用日数、最大月額 11,300 円までの延長保育料が無償になります。しかし幼稚園はその額を超えた金額の延長保育料を設定できます。あくまで保護者と園の契約で、金額の上限はありません。

柏市では国基準の待機児童はゼロですが、近隣の園や兄弟と同じ園を希望しても叶わず、入園保留者となった方が年度初めに 219 名いました。保育需要が逼迫している中で、幼稚園の保育料や延長保育料が高くなれば、保育園やこども園を希望する保護者がますます増えます。

幼稚園の指導権限は県にあります。柏市の保育施策とも無縁でないことから、柏市でも幼稚園の状況把握と独自支援を検討するように求め、前向きな答弁が得られました。今後に期待します。

▶ 2022 年第 2 回定例会 ◀

定例会が6月3日(金)から6月22日(水)まで行われました。本会議の録画は柏市のHPで見ることができます。



6/14
(火)

一般質問項目

- 感染予防効果データ修正問題
- マスクと熱中症予防
- 子どもの学びと体験機会の尊重
- 子ども若者総合支援センター
- 保育需要と幼稚園延長保育
- HPV ワクチン
- 発達検査の扱い
- 部活動総量規制
- スクラップヤード
- PRTR 制度

※「一般質問」は市の事務の執行状況の報告や計画について市長や担当部長に質疑し、市民のための適切な市政運営を進めているかを議員がチェックするものです。

現役ママ議員としゃべろう

LINE 相談・おはなし会



柏市へのご要望、暮らしの困りごとなど、公式 LINE にてお気軽にご相談ください。議会報告会やおはなし会も開催いたします。ご希望の方はお問い合わせください。